

1. 日時 令和5年2月4日(土) 3～6時限目(10:40～15:10)
2. 場所 大阪教育大学附属天王寺中学校 3年生ホームルーム(ABCD教室)
3. 学年 3年生
4. 題材 「青春の歌—無名性の光」教育出版 pp.262-265
5. 題材設定の理由

(1)教材観

本教材は、7つの短歌の解釈を交えながら「青春とはどういう時間だろう」という問いに答えていくものである。筆者が短歌の解釈を考へるの根拠として青春について考へを深めていることから、自分の生き方や社会との関わり方について考へるきっかけとして短歌という表現があることに気づく学習者もいることだろう。また、短歌について他者の解釈に触れることが、自分自身の生き方や社会との関わり方を支える読書になると考へることもできる。

まず、学習者は、大人になれば失われる「無名性」(社会的に交換可能な存在)に「青春」の本質があり(1首目)、その限定された時間の現れとして非生産的な行為に時間を費やす若者の心理(2・3首目)が隠されているのではないかと考へ察するに至ることができる。次に、大人になった時、青春の無名性が遠く眩しい過去とされるのは(4首目)、何にも所属せず、どこにいるかもわからない自由(5・6首目)の喪失からであると知る。しかし、無名の時を経て、かけがえのない何者かになろうとしている〈私〉は、戻れない十代に戻れなくてもいいと考へることに思い至ることができるだろう。

(2)指導観

学習者は、第二学年でも短歌については学習を行った。また、第三学年教科書には「和歌の調べ」として『万葉集』『古今和歌集』をはじめ『おくのほそ道』などの古典韻文が教材となっており、和歌に関しては1首ずつ読み解き味わう学習をし、また科学的な根拠を持って俳句を味わうなどした学習を重ねてきた。しかし、今回は複数の短歌を集めて紹介、解説するブックトークのような機能もある。評論として、副題となっている「無名性の光」とは何かを読み取り、筆者の考へに対して自分の考へを持つだけに終わらず、筆者の考へるの根拠になっている短歌の世界の魅力に触れつつ、自分たちの思いを形にしてみることで、より深い解釈をすることができると思える。また、学習者の多様な思いを、短歌という字数の限られた定型詩(韻文)にすることで、言葉の持つ意味や表現の可能性を深く考へ察する機会を持つことができると考へるため、班活動とする。その際、言葉の働きや可能性に、より気づきやすくするためと、言葉と言葉が作用し、多様な表現を可能にすることを意識させるため、各班から名詞、動詞に限り5文字以下の言葉を出し、ランダムに振り分けることとする。その言葉を活かし、自分たちの心情をどう表現するかも楽しみたい。

6. 単元目標

- ・現代短歌とその評論を読み、生き方や社会との関りについて考へ、短歌や評論の形式で表現する【思考・判断・表現】
- ・短歌の世界の魅力にふれ、他者とともに言語感覚を磨く【知識・技能】

7. 単元計画

第一時 本教材の理解、「青春」を題材にした短歌の制作と5文字以下の言葉の提供

第二時 (本時) 他班から提供された言葉を含む(活かす)自分たちにとっての「青春の短歌」の制作と比較

第三時 制作した短歌の評論文を書く

8. 本時の目標と評価

	A	B	C (支援の手立て)
展開① 短歌の創作 【思考・判断・表現】	自分の今の現実に合わせており、他者の共感や感動を得られる短歌を詠むことができる	自分の今の現実にあった短歌を詠むことができる	自分の今の現実を捉えられていない、もしくは、短歌の形になっていない →今の生活を振り返るように促す。また、多様な短歌の形式や技法を手がかりにさせる
展開② 短歌の比較 【知識・技能】	比較分析について、言葉の違いや価値に気づき的確な言葉で表現できる	比較分析について、言葉の違いや価値に気づくことができる	比較分析することができない →言葉の違いを示し、意味や語感の違いに着目させる

9. 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点
導入(5分)	<ul style="list-style-type: none"> 各班からカード(単語が書かれた)を回収する 同じ班に返らないようカードを配る 	<ul style="list-style-type: none"> 単語が「動詞の終止形」「名詞」であるか確認
展開①(25分)	<ul style="list-style-type: none"> カードに書かれた単語(名詞はそのまま、動詞は活用させてもよい)を用い、自分たちの現在に合った現状や感覚の短歌を作る 前時に作った短歌と今回作った短歌をそれぞれホワイトボードに書き、黒板に張り付ける 	<ul style="list-style-type: none"> 班員で自分たちの現在について語り合い、振り分けられた単語を活かせる表現を提案しあえるよう促す
展開②(15分)	<ul style="list-style-type: none"> 各班の短歌2首を簡単に解説する 各班で、他班のそれぞれの短歌に使われた同一の単語を中心に、その働きや表現について話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 解説は、何をどう表現したか、簡潔にまとめるように促す
結末(5分)	<ul style="list-style-type: none"> すべての短歌の中、比較評論できるものを選ぶ準備をする 	<ul style="list-style-type: none"> クラス作品をすべて見られるように、作品の写真を配信する(授業後)